

別紙3

機能要件一覧

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
1. 全般						
(1) 概要						
1	学校図書館向けに開発された学校図書館専用のパッケージソフトであること。	○				
2	画面のサイズは任意に変更でき、画面サイズに準拠して、画面内の入力項目のサイズも自動的に変更されること					
3	データ登録を行う画面において、必須入力となる項目は背景色で視認できること	○				
4	全ての画面において、入力カーソルがある項目に任意の背景色、文字色を設定できること					
5	使用する画面のフォントは任意に設定できること					
6	日付表示は、西暦・和暦の選択ができること	○				
7	全画面にログインIDと処理端末IDが表示できること					
8	画面上の基本処理（選択・コード選択）がマウスおよびファンクションキーで操作できること					
9	TABキー、Enterキーにより各入力項目間のカーソルを移動できること	○				
10	処理実行、戻る等のキーボード操作、ファンクションキー操作及びボタンの配置に統一性があること	○				
11	全てのボタンについてショートカットキーを配置し、ファンクションキー（キーボード）によっても操作できること					
12	メニューボタンが大きく、ディスプレイがタッチパネル式であれば指でタッチすることによって無理なく操作できること	○				
13	バーコードリーダによる読み取り時、端末からも読み取り確認音が出ること。また、端末で読みとれていない場合はエラー音を出すこと					
14	データ登録画面において、データ入力中に登録処理を行わないまま、誤って「終了」ボタンをクリックしたとき、確認メッセージが表示できること					
15	貸出画面や返却画面の資料明細で、マウスの右クリックによりローカル情報、タイトル情報の修正画面が起動するなど、カウンターでの資料修正の省力化が図れること					
16	基本的な操作（貸出・返却・検索・利用者登録・資料登録など）画面の展開は、メニュー画面に戻らなくてもファンクションキーを押すことにより、直接画面を展開することが可能であること。					
17	どの画面を起動しているときでも、ファンクションキーによりワンタッチで別画面を起動できること					
18	ワンタッチで起動する別画面は、任意に設定できること（4つ以上）					
19	画面展開の際、不要な確認については求めることなく展開すること					
20	画面を遷移したとき、画面上に遷移した履歴が表示されること。 例) ①貸出処理→②利用者検索画面→③利用者登録画面→④利用者貸出一覧画面の順で遷移したとき、画面上に遷移した履歴が表示される。					
21	業務メニューの構成は学校ごと、端末ごと、業務権限ごとに変更が可能なこと					
22	業務メニュー画面は、各ボタンの名称、配置場所、配置の順番、空きスペースなども設定可能なこと					
23	利用者区分（例：司書、教員、児童・生徒など）ごとに業務権限を設定でき、機能制限が可能であること	○				
24	児童・生徒が利用することに十分配慮されたグラフィカルで分かりやすい業務メニューを備えていること	○				
25	基本業務の起動はファンクションキーを押すことで可能であること					
26	業務画面のトップに、長期予約割当/長期予約待ち/予約受取希望日/予約割当可能資料/保管期限切れ雑誌が何件あるのかを自動でお知らせ表示できること またお知らせ表示画面から直接、対象資料の一覧画面へ遷移できること					
27	貸出や返却の統計データについては、リアルタイムにサーバのデータベースを更新し、日次処理など特別な作業を必要としないこと	○				
28	各種リスト、統計結果は、すべてのテキスト形式（CSV形式等）での出力が可能なこと	○				
2. カウンター業務						
(1) 貸出業務						
29	バーコードの読込のみで貸出・返却処理ができること	○				
30	貸出・返却業務をよりスムーズに行う為、確定処理などの操作無しで実施できること	○				
31	利用者番号と資料番号を読み込んだ時点で貸出を確定し、データベースを更新すること					
32	複数冊の資料の貸出処理を行う場合、利用者バーコードの読み込み後、貸出を行う資料のバーコードを連続して読み込む事で複数冊の資料の貸出処理ができること	○				
33	貸出処理画面から貸出した資料の一覧を印刷できること。	○				
34	貸出処理画面で、利用者の貸出中資料・予約中資料の一覧を表示できること。当日分/全体分の切り替えができること					
35	貸出資料一覧画面から、継続貸出・強制返却（強制不明）・貸出取消・期限変更の処理が可能なこと					
36	貸出取消を行った場合、貸出統計より自動的に減算すること					
37	利用者に対して予約が割り当たっている場合、自動的に通知画面が表示されること	○				

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
38	予約していた資料を貸し出すと、予約データが消去されること	○				
39	図書館カレンダーの休館日を設定することで返却予定日を管理し、また貸出画面での随時変更も可能なこと	○				
40	図書館カレンダーは学校毎に設定できること	○				
41	各学校毎に貸出期間や貸出上限冊数、予約上限冊数を設定できること	○				
42	各学校毎に夏休み（長期休暇）などの固定返却期限日を設定できること	○				
43	任意の期間内で利用者が同じ本を複数回貸出が行えないよう設定できること					
44	バーコードではなく、利用者検索から利用者の呼び出しができること。 また、利用者検索では、利用者区分（児童・生徒や教員など）・氏名・所属情報（学科/学年/組/出席番号）・学籍番号・利用者番号から検索できること	○				
45	紛失登録時から、任意の貸出状態を選択し、紛失日、メモを管理し、紛失資料の管理を行うことができること					
46	紛失登録した資料は督促対象から除くことができること	○				
47	一定時間が経過すると表示情報が自動的にクリアされること	○				
48	貸出画面から利用者の予約一覧画面を開き、予約状況の確認、予約取消が行えること。					
49	延滞資料有り・貸出点数オーバー・督促利用者・予約有利用者・コメント有り等を自動的に音やメッセージで通知できること。その際、ウインドウによる通知表示も任意に行えること					
(2) 返却業務						
50	返却する資料の資料番号を読み込むだけで返却が確定すること	○				
51	資料番号を読み込んだ時点でデータベースを更新し、確定処理等は不要なこと	○				
52	多量の返却本を連続で返却する機能を有すること	○				
53	返却画面から貸出画面へ画面切替えができること					
54	操作を行わず一定時間が経過すると表示情報が自動的にクリアされること	○				
55	返却画面から資料を返却した利用者の未返却資料一覧を表示できること					
56	返却資料の明細をダブルクリックすることにより、資料データの詳細情報（書誌情報、ローカル情報一覧）が表示できること					
57	返却した利用者に対する予約割当て、コメント情報の通知が自動的に表示されること					
58	資料から借用した利用者の履歴を確認できること。また個人情報の観点により、履歴を蓄積しない（返却時に履歴消去）設定や、直近何名までの履歴を蓄積するかの設定、もしくは当日のみ履歴確認を可能にするかの設定が行えること					
59	利用者を特定することにより、該当の利用者が当日返却した資料を確認できること					
(3) 資料検索業務						
60	「資料名」「著者名」「出版者」「件名」「ISBN」「請求記号」「資料番号」などから検索が可能であること	○				
61	資料情報に任意で登録した独自キーワードから検索が可能であること					
62	「資料名」「著者名」「出版者」「件名」「ISBN」「請求記号」「MARC番号」「内容細目」等のMARCデータを有効に活用した検索が可能であること					
63	論理演算子（AND、OR、NOT）を使用し、複数項目間の複合検索が行えること（5項目以上の複合検索に対応していること）					
64	項目により「前方/後方一致」「完全一致」「中間一致」で検索が行えること					
65	あいまい検索ができること					
66	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角・大文字小文字両方で同じ検索が行えること（同音異語でも検索でき、清音規則は任意に設定できること）					
67	絞り込み条件として「資料種別」「所蔵校」「保管場所」「所在校」「状態区分」「除籍状態」「受入区分」「貸出区分」「受入先」「予算区分」「購入（備品）区分」「貸出開始日」「媒体区分」「利用対象」「流通区分」「刊行形態」などが指定できること。また、絞り込み条件の指定パターンを複数保存できること					
68	検索した履歴を選択することで再検索ができ、検索作業の簡略化が図れること	○				
69	検索結果から所蔵状態（不明資料・除籍・貸出中等）の把握・修正が行えること					
70	貸出中の資料の場合、貸出中の利用者氏名を確認でき、利用者詳細情報画面へ遷移できること					
71	タイトル一覧画面は登録順（最新が上）を常態とし「タイトル」「著者名」「出版年月」「請求記号」などの並べ替えができること。また、昇順・降順を指定できること					
72	検索結果として表示する項目は任意に設定できること					
73	検索結果画面から、資料の所蔵冊数・未所蔵冊数・発注中冊数・予約件数などの状態が把握できること					
74	検索結果画面（書名単位）の一覧を印刷できること。また、一覧から印刷対象を任意で選択できること	○				

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
75	検索結果該当資料（書名単位）をCSVファイルに出力できること					
76	児童・生徒専用の検索機能および画面を有すること	○				
77	予め画像や音声を登録した資料であれば、資料詳細画面からその画像や音声を参照することができること					
78	資料に登録された児童・生徒の感想文や司書や先生による推薦文を閲覧または検索できること					
(4) 予約業務						
79	資料検索結果から予約処理に展開することができること	○				
80	予約資料の現在の状態（利用可能、予約中等）の管理が行えること。また、貸出予定日を表示できること	○				
81	利用者区分ごとに予約上限数を設定し、新規予約登録時に上限に達する場合は通知画面を表示し、続行・中断が選択できること	○				
82	予約上限数は、資料区分（図書、雑誌、AV）の任意の組み合わせにより設定できること					
83	受取希望日を過ぎた予約がある場合、業務画面トップに自動的にお知らせが表示され、貸出画面や返却画面でも通知が表示され利用者に案内が可能であること					
84	予約リストを出力することができ、出力結果から一括または個別の予約取消・予約割当解除が行えること					
85	資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括で予約を行えること	○				
86	予約した際の予約日時を管理することができること					
87	予約された資料の割当方法（返却待ち、借受待ち、発注待ち等）の情報を管理できること					
88	特定資料に対して、期間を指定した予約受付制限を実施することができること					
89	予約者の予約・貸出状況（予約数・貸出数・督促数・延滞数）を予約受付画面に表示できること					
90	基本的に予約した日時順で優先されるが、予約順位の変更が簡単な処理で可能であること					
3. 資料管理業務						
(1) 書誌管理業務						
91	書誌情報として「書名」「巻号」「著者名」「出版社」「発売元」「出版年月」「NDC」「ISBN」「価格」「サイズ」「ページ」「件名（学習件名）」「内容紹介」「言語区分」「媒体区分」「利用対象区分」などが登録できること	○				
92	JAPAN/MARC、TRCMARC（Tタイプ）に対応していること	○				
93	国立国会図書館「NDL-Search」とのAPIによる連携に対応していること					
94	図書館流通センター「TOOLi」または「TOOLi-S」とのAPIによる連携に対応していること					
95	図書館流通センターからの購入本は自動で取込処理が実行できること	○				
96	TOOLi-SのMARCデータを直接取り込んで書誌を登録できること。また、TOOLi-Sのダウンロード機能を利用して、個々の書誌情報の登録も可能であること					
97	MARC情報が無い資料も手入力による登録ができること	○				
98	登録済書誌情報を検索して、検索結果から複本として追加登録できること					
99	ISBNコードがある資料については、同一の図書データが存在する場合に自動的に複本として登録されること					
100	複本の解除・登録が任意で行えること	○				
101	登録済書誌情報画面から、利用状況（通算/当年予約累計・利用可能冊数など）を確認できること					
102	任意の独自キーワードを登録でき、独自キーワードから検索も行えること					
103	感想文・推薦文を登録できること					
(2) 資料ローカルデータ管理業務						
104	資料ローカル情報で「所蔵校」「所在校」等の詳細情報を管理して学校間連携に対応できること	○				
105	資料ローカル情報として「請求記号」「資料状態」「保管場所」「禁帯区分」「貸出区分」「受入区分」「受入先」「予算区分」「購入区分」「価格区分」「受入日」「定価」「本体価格」「受入価格」「セット数」などを登録できること。また、必須とする項目は任意で指定できること。					
106	資料の寄贈者情報の入力ができ、寄贈者単位での冊数確認及び一覧表の印刷が可能であること					
107	児童・生徒に対して、資料を検索対象とするか否かの設定が可能であること					
108	資料の除籍処理は、①除籍予定、②本除籍の段階を踏んで処理を行えること					
109	除籍予定入力は、任意の除籍理由を指定してバーコードの読み取りにより処理ができること					
110	本除籍処理は「除籍予定日」「除籍理由」「購入区分」「受入区分」「所蔵館」「資料種別」を指定して一括で処理ができること					
111	本除籍処理時、除籍日を除籍予定日とするか任意の日付にするか選択できること					
112	除籍予定または除籍済みリストを印刷またはテキスト出力できること					
113	不明本については、点検不明回数や初回点検不明日を指定して、一括除籍予定または一括本除籍が可能であること					

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
114	雑誌については、保存期限や雑誌番号（登録時に入力）を指定して、一括除籍予定または一括本除籍が可能であること					
115	除籍本の復籍が可能であること。また、復籍時には受入区分・受入日を指定できること					
(3) 蔵書点検業務						
116	蔵書点検は「司書端末（ノートパソコン）」「ハンディターミナル（オフライン）」で作業ができること	○				
117	司書端末（ノートパソコン）による点検入力画面に「資料種別」「資料番号」「タイトル」「禁帯区分」「所蔵館」「保管場所」「請求記号」「貸出/督促状況」「返却期限日」「貸出累計情報」などが表示されること					
118	蔵書点検の際「除籍」「未登録」「配架場所相違」等のチェックリストを出力できること					
119	ワンクリックで蔵書点検の進捗確認（点検済・未点検件数の確認）ができること					
120	蔵書点検中に通常返却処理を実施することが可能であり、返却された資料は点検済みとなること					
121	不明資料リストは、点検不明回数、初回点検不明を指定して抽出・印刷できること また、点検不明と強制不明（強制返却により不明となった本）は分けて抽出できること					
122	不明資料リストは「資料番号」「請求記号」「受入区分」などからソート条件を指定できること					
(4) 雑誌管理業務						
123	タイトル書誌一覧を表示することによりタイトルを特定し、タイトル/巻号の書誌連携が行えること	○				
124	逐次刊行物（雑誌等）の欠号・増刊管理ができること	○				
125	逐次刊行物等の製本（合本）処理ができること。また、製本された資料のタイトル情報は移行され資料検索できること					
126	最新号を受け入れたタイミングで、それ以前の巻号は自動的に貸出可能となること					
127	雑誌の保存期限を任意で指定できること。また、保存期限が切れた雑誌については、業務メニュートップ画面のお知らせに自動的に通知が表示されること					
4. 利用者管理業務						
(1) 利用者登録業務						
128	利用者番号（利用者バーコード番号）は、手入力またはシステムによる自動採番が可能であること。	○				
129	利用者情報として「氏名」「利用者区分」「性別」「学籍番号」「所属情報（学科/学年/組/出席番号）」「パスワード」「所属校」「貸出区分」「登録日」「状態区分」などが登録できること。また、必須項目については背景色を任意の色へ設定できること	○				
130	利用者名入力時に、自動カナ振り機能を有すること（利用者名漢字欄のローマ字入力に基づいて自動的に振れること）					
131	「利用者氏名カナ」「所属校」「学年」「クラス」「生年月日」などで二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。また、二重登録利用者のチェック項目については、任意に設定できること					
132	外部ファイル（CSVもしくはEXCEL）からの一括取込ができること	○				
133	パスワード入力画面にてパスワードを「表示」「非表示」選択可能なこと					
134	パスワードの非表示の際に司書のみ確認ができる権限を付与することができること					
135	利用者に対してコメント登録機能を持ち「忘れ物」「落し物」「その他」の案内等を「定型文」「自由文」で複数登録できること。また、通知は「毎回表示」「表示後消去」「表示しない」指定ができること	○				
136	登録済利用者情報の「修正」「除籍」「復籍」の処理が行えること	○				
137	除籍済み利用者の一括削除が行えること	○				
138	利用者カードの「再発行」「番号置換」が出来ること。その場合、図書館利用データ（貸出・予約情報、貸出累計等）は引き継がれること	○				
(2) 利用者検索業務						
139	「学年」「組」「利用者氏名」「利用者番号」により検索処理が行えること	○				
140	複数項目に入力することによりAND検索ができること	○				
141	利用者一覧画面の並び順を指定でき「昇順」「降順」を指定できること					
142	検索結果から利用者の詳細情報を表示できること （氏名、学年、クラス、出席番号、最終利用日、督促累計回数、貸出資料一覧、予約資料一覧、コメント等が確認できること）	○				
143	検索された利用者进行を特定することにより、貸出中資料、予約中資料画面へ遷移できること					
(3) 年度更新業務						

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
144	進級に伴うクラス編成処理が行えること (例：CSVもしくはEXCELデータによる一括取込、クラス編成処理画面による新年度クラスへの移動、新年度の学年・クラスを指定して、出席番号順に利用者カードを読み取るクラス編成処理など複数の方法があること)	○				
145	卒業生の一括除籍が行えること	○				
146	読書通帳システムなど外部システムに利用者情報を一括登録するためのCSVファイルを作成、出力できること	○				
(4) 督促業務						
147	「貸出期限」「貸出校」「資料種別」「利用者区分」「所属情報」「保管場所」「予約」などの有無をキーとして督促対象者の抽出または督促処理が実行できること	○				
148	「延滞期間」又は「返却予定日」の範囲指定および督促回数により、「督促リスト」「督促連絡票」または「個票」を印刷する事が出来ること	○				
149	出力順を「学年」「クラス」「出席番号順」「氏名順」「資料区分順」に並び替えることができること					
(5) バーコード・ラベル印刷						
150	登録済データの利用者バーコードの印刷ができること	○				
151	利用者バーコードは台帳タイプで印刷できること。	○				
152	利用者バーコードは台帳タイプの他に名刺サイズの切り取り線が付いたカードタイプを任意で選択できること					
153	利用者バーコードの印刷対象は「所属情報」「バーコード番号範囲」「個別のバーコード番号」で指定できること					
154	利用者バーコードは、「利用者区分」「所属情報」「利用者番号」「氏名カナ」から印字順を指定できること					
5. 児童・生徒用システム						
(1) 全般						
155	司書端末（ノートパソコン）で児童・生徒が操作できる専用の貸出・返却・資料検索画面を有すること	○				
156	図書委員などの児童・生徒でもわかりやすい画面構成で、かんたんな操作で処理が完了できる機能であること	○				
157	児童・生徒用画面は全画面表示によって他のアプリケーションやOSのシャットダウンなどの不要な操作を禁止できること	○				
158	児童・生徒用システムでは、貸出・返却・資料検索以外は使用できないこと	○				
159	児童・生徒用システムでは、学校ごとにメニューボタンの表記を「漢字」「ひらがな」で選択することができること					
160	児童・生徒用システム起動時にはログイン情報の入力が必要としないこと。また、ログイン情報の入力を必須とする設定も可能であること	○				
(2) 貸出業務						
161	基本的にはキーボードやマウスの操作なくバーコードの読込のみで貸出処理ができること	○				
162	利用者番号と資料番号を読み込んだ時点で貸出を確定し、データベースを更新すること					
163	貸出・返却業務をよりスムーズに行う為、確定処理などの操作無しで実施できること。					
164	バーコードの読み込みにより、貸出・返却画面切替が可能なこと					
165	複数冊の資料の貸出処理を行う場合、利用者バーコードの読み込み後、貸出を行う資料のバーコードを連続して読み込む事で複数冊の資料の貸出処理ができること	○				
166	利用者を呼び出した際、貸出中資料の書名や返却予定日などの情報を表示することができること。また、個人情報の観点により、貸出中資料の情報を非表示にすることもできること					
(3) 返却業務						
167	返却する資料の資料番号を読み込むだけで返却が確定すること	○				
168	資料番号を読み込んだ時点でデータベースを更新し、完了処理等は不要なこと	○				
169	バーコードの読み込みにより、「貸出画面/返却画面」切替及び「貸出・返却処理画面」の起動が可能なこと					
170	返却画面から貸出画面への展開は、利用者番号を読み込むだけで行えること。また、バーコードリーダーによる画面切替えもできること					
(4) 資料検索業務						
171	児童・生徒が使うタブレットから蔵書の検索ができること。	○				タブレット
172	児童・生徒が使いやすい工夫がされていること。また、学校ごとに初期表示される画面を設定できること	○				タブレット/司書端末
173	画面を触らない時間（任意設定）が一定経過すると自動的にトップ画面へ戻ること	○				タブレット/司書端末
174	フリーワード検索は「資料名」「著者名」「件名」「内容細目」など、項目を指定しない形の「全文検索」が行えること					タブレット/司書端末

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
175	検索結果画面では、貸出可能資料の在庫有無が数値以外でもマークなどにより簡単に判断できること					タブレット/司書端末
176	検索結果画面では、ヒットしたキーワードの箇所の色を反転するなどして簡単に判断できること					タブレット/司書端末
177	検索結果画面から資料の詳細画面が表示、または遷移できること					タブレット/司書端末
178	資料の詳細画面では、現在の「予約数」「貸出数」「貸出可能数」が確認できること					タブレット/司書端末
179	タイトル・著者名（典拠データ参照）・キーワード等より選択して検索できること（一般書か児童書かで絞った後でもできること）					タブレット/司書端末
180	少ない文字数での検索の際、完全一致検索にするかどうか設定できること					タブレット/司書端末
181	検索結果は「タイトル」「著者名」「出版年」「分類順」で並べ替え（ソート）が可能なこと					タブレット/司書端末
182	予め設定した任意の期間を超えて延滞している資料を検索の対象外にできること					タブレット/司書端末
183	一覧表示形式はタイトル毎に横形式表示すること					タブレット/司書端末
(5) 一覧検索機能						
184	新着資料について新しい本を受け入れた段階で自動的に表示されること	○				
185	貸出ベスト・予約ベストについて抽出する期間（月/週/日）をあらかじめ設定しておくことによって自動的に表示されること					
186	任意のおすすめ図書リストを登録することによって一覧表示されること					
187	おすすめ図書リストはカテゴリに分けた複数のグループで登録が可能で、登録可能なグループの上限数は無いこと					
188	一覧よりタイトルをクリックすることによって資料の詳細情報の確認及び資料の状態（貸出可能・貸出中など）を確認できること					
(6) 予約						
189	児童・生徒が使うタブレットから予約ができること。					タブレット
190	予約の際に、利用者番号及びパスワードを入力することによって予約が行えること。また、設定により利用者番号のみでも予約が行えること					タブレット
191	児童・生徒が使うタブレットから予約の取り消しができること。					
(7) お知らせ						
192	図書館に関するお知らせ（催し物、展示など）を掲載できること	○				タブレット/司書端末
193	お知らせを表示する期間（yyyy/mm/dd～yyyy/mm/dd）を設定することによって自動的にお知らせが「表示」「非表示」されること					タブレット/司書端末
194	お知らせ内容に文字情報以外にURLや画像情報としても登録できること					タブレット/司書端末
195	お知らせ機能で、図書館カレンダー情報を学校毎にカレンダー形式で表示できること（システムと連動して自動的に表示できます）					タブレット/司書端末
196	お知らせの表示順を制御できること					タブレット/司書端末
(8) 利用状況照会						
197	児童・生徒が利用者番号及びパスワードを入力することによって、自分自身の利用状況が確認できること。また、設定によって利用者番号のみでも確認できること					
198	児童・生徒が現在借りている資料の一覧が確認できること					
6. 学校間連携・相互貸借						
(1) 全般						
199	各学校の資料を横断で検索することができること	○				
200	検索対象の学校（所在館）を任意に選択することもできること	○				
201	自校・他校で検索した場合、検索結果は自校・他校の所蔵を色分けして表示ができること（例：自校は白色、他校は白以外の色）	○				
202	検索結果には複本・貸出可・利用可などの所蔵の情報が一覧で確認ができること					
203	他校の資料を予約する場合は該当資料を選択することで予約ができること					
204	予約をする場合、予約画面で現在その資料の予約がどれだけあるか一覧で確認できること					
7. 帳票・統計						
(1) 全般						
205	貸出や返却の統計データは、リアルタイムにサーバのデータベースから抽出を行い、日時処理・月次処理等の特別な処理を必要としないこと	○				
206	帳票の出力サイズはA4サイズで統一されていること	○				
207	データ抽出の途中で中断、取消、保留、継続が選択できること					
208	帳票印刷はプレビュー機能により画面上で確認でき、プレビュー後に直接印刷、PDF保存、テキスト出力ができること	○				
209	全校分の統計帳票はSEによる作業無しで出力できること	○				
210	全ての帳票、統計の抽出結果は、画面上でプレビュー表示することができ、そのまま印刷もできること	○				

別紙3 機能要件一覧

No.	機能仕様	必須	対応可	対応不可	代替方法	備考
211	利用（貸出・返却・予約）統計表は「日報」「月報」「学期」「年報」「任意」の期間を指定して出力できること					
212	貸出が一度もない未利用資料の出力ができること	○				
213	任意の図書リスト（特集コーナー本、授業で使用した本など）を作成でき「保存」「呼出」「変更」「削除」ができること					
214	任意の資料を特集本として登録することができ、指定した期間で保管場所を一時的に変更できること。また、特集として登録する本のリストは、作成済の図書リストからデータを流用できること					
8. 情報共有ツール						
(1) 全般						
215	アカウント間で各種情報共有・情報交換ができること	○				
216	メールなどの外部送受信可能な機能は有していないこと	○				
217	アカウント毎にログイン履歴が記録されること	○				
218	情報登録が行われたら、システム業務メニュートップのお知らせ欄に通知が表示されること					
(2) 掲示板機能						
219	全アカウントに対して、共通のお知らせ情報を一斉通知できる掲示板機能があること	○				
220	掲示開始日と掲示期限の設定ができること					
221	掲示されている文書が一覧で表示できること					
222	一度既読になった掲示板も未読に変更が可能であること					
223	掲示板の作成時に雛形の挿入が可能であること					
224	掲示板は検索機能を有しており「分類」「タイトル」「本文」「作成者名」で検索ができること					
225	掲示板の入力では文字の装飾（太字・色付・サイズ変更）、「Word」「Excel」からコピー&ペーストが可能であること					
226	掲示期日を過ぎた掲示板の「表示」「非表示」を設定できること					
227	掲示板作成時に複数のファイルを添付できること					
228	既読の掲示にはチェック表示が行われ、未読と区別ができること					
229	掲示内容をコピーして掲示板を新規作成できること					